
ネコと死体 【SS】

野生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネコと死体 【SS】

【コード】

N8896Z

【作者名】

野生

【あらすじ】

ネコと死体のちょっと切ない物語

「猫と死体」

「やあ、今日も元気かい？」

へにやつと笑つて、学校から帰ってきた皆人は私の背を撫ぜた。温かな手が黒い毛を梳く。ゴロゴロと喉を鳴らして仰向けになると、その手がお腹に伸びた。

あんたは今日も能天気そうね。死体のくせに

皮肉を込めて一鳴きしたら、皆人はやつぱりへにやつと笑つた。

呆れた顔を浮かべと、皆人の指先が私の顎に伸びた。悔しいけど気持ちい。二股に割れた尾が勝手に踊る。

私は猫又。黒猫の猫又には死体を操る力がある。でも、操るだけで、死体には人格なんて存在しない。

なのに、皆人にはちゃんと元の人格があつた。

口元から垂れる涎を舐めとり、私は皆人に聞く。

体の調子はどうなの？

「けっこういいよ」

床に寝ころんでいた私を皆人は持ち上げた。

無理しちゃだめよ

「こんなの無理にならないって」

指先が今度は耳の裏に伸びる。心地良い腕の中。紛れもなく生きている皆人。トクトクと、静かな心音が聞こえる。

知らず知らずのうちに時間が経ち、夜の帳が落ちる。静まり返る部屋の中。心音が、少しずつ、少しずつ小さくなっていく。

朗らかな笑みを残し、皆人は眠つた。力を失い、私を支えていた腕が解ける。同時に、皆人の体がごみ箱を巻き添えにして倒れた。

ごみ箱から、一枚のメモが飛び出す。

【友達がほしい】

その一文だけが、紙片には綴られていた。

廊下から誰かが近づいてくる気配がする。

私は扉が開けられるまでぎりぎりまで悩んだ拳句、皆人の薄くなつた唇をぺろりと嘗めた。

「皆人、どうしたの？」

「ううん、なんでもないよ」

顔を覗かせた母親に、皆人は体を起して答える。そして、母親が戻っていくのを見届けて、泣き顔を浮かべながら呟いた。

「なんで、いつも助けてくれるの？」

いじめに疲れた皆人は尋ねる。

わからない

答えながら、ベッドに飛び乗りさらに続ける。

だから、理由がわかるまで生きててもらわないと困る

そっぽを向く私に、皆人は涙を零しながらへにやっとなら笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8896z/>

ネコと死体 【SS】

2011年12月27日23時51分発行